

岐阜県立加茂農林高等学校

学 校 長 丹羽 俊文

学校住所 美濃加茂市本郷町3-3-13 電話 0574-26-1238

- 1 会議の名称 岐阜県立加茂農林高等学校 学校評議員による会議 (第1回)
- 2 会議の構成

委 員	桂川 直人	岐阜県農業大学校長	
	佐伯 薫	岐阜県指導農業士	
	平井 靖司	地方公務員	
	福田 文代	ボランティア団体副会長	
	渡辺 祥二	農業生産法人代表	
学校側	丹羽 俊文	校長 齋藤 寧子	教諭(教務主任)
	村井 真	教頭 岩永 英夫	教諭(生徒指導主事)
	岩井のり子	事務部長 澤野 美彦	教諭(進路指導主事)
	八束 功子	教諭(農場長)	
- 3 会議の目的 学校運営について地域住民等から幅広く意見を聴き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年7月3日(火) 13:30~15:30
評議員5名全員が出席
- 5 会議の概要
 - 1 平成30年度学校評議員の委嘱
 - 2 教頭あいさつ及び出席者自己紹介
 - 3 授業参観・校内見学
 - 4 生徒の学習活動の紹介
 - ・意見発表(環境デザイン科3年生1名)
「日本の樹木を守るために」
 - ・プロジェクト発表(食品科学科3年生5名)
「ヤギの置き手紙から手土産を」
～さつまいもの塩麹焼きドーナツの商品化～
 - 5 学校評議員による会議
 - (1) 教頭・各分掌長による教育活動の説明
 - (2) 学校への意見・要望等
 - (3) その他
 - ・学校評価アンケートの依頼
 - ・学校評議員会のHP掲載について(氏名等のご承諾)

開会の挨拶等の後、農場の施設・設備の見学と実習の様子、本館棟の座学による授業参観をしていただいた。その後、生徒の活動例（意見発表とプロジェクト発表）を紹介するとともに、教頭及び各分掌長による教育活動の説明を行った。

それらを踏まえて、学校評議員の方々からご感想・ご質問・ご意見をお聴きした。主な意見等をまとめると以下のとおりである。

意見1 今年度の重点として掲げる「あいさつファースト」はとても大切なことだと考える。あいさつができる人は主体性があり、主体性はこれから社会で生きていくために必要なスキルでもある。さらに農業には必要なことである。ぜひ主体的にあいさつができる生徒を育てて下さい。

教室での授業では暑いなか、生徒はよく集中して授業を受けていることに感心する。施設設備は整っているので、十分な専門教育がなされていると思うが、確かな基礎学力を身につけさせる指導もお願いしたい。

意見2 やはり農業高校には後継者の育成をお願いしたい。といっても高校卒業後すぐ就農するのではなく、いったんどこかに就職し、その後農業を始めるといった方法でも良いと考える。農業以外の仕事を経験することで、社会の動きとか人付き合いの仕方など、将来農業をするにあたってそれらの経験が役に立つと考える。

本校はたくさんの強みを持っている。その強みを生かせるような学校運営をしてほしい。

意見3 私は今年から学校評議委員となり、授業の様子や「生徒の活動紹介」を見させてもらった。生徒は素晴らしい環境の中で学習していると感じた。この3年間でいろいろな事を学び、身につけ成長してほしいと願っている。

意見4 「あいさつファースト」と言わなければならないことが問題なのではないか。本来は人と人との関わりの中で自然に挨拶ができるようになるもの。一方的な押しつけのあいさつではなく、違うアプローチも考えてみたらどうか。

意見5 生徒はよく挨拶してくれました。特に挨拶ができないとは感じなかった。

本校の生徒とあるプロジェクトで関わることがありその時に感じたことですが、「直球は打てても変化球は苦手」というように、素直で真面目ではあるが創造力が足りないと感じる。創造力を鍛えるには読書がいいと思う。読書は文字から読み取れる情報からいろいろなことを想像する訓練になる。高校生の内にいろいろな事を経験させてほしい。それが将来の役に立つと思う。

質問1 家庭学習の時間について学年が進むと減ってくるのはなぜでしょうか？

それはカリキュラムによるものですか？

学校側 カリキュラムによるものではありません。

学年が進むにつれて、慣れや怠けがでてきて、これくらいでいいだろう、という甘えだと考えています。このことについては深く受けとめ、家庭学習に積極的に取り組める工夫を考えたいと思います。

6 会議のまとめ

今年度の本校の重点項目や生徒の活動等を理解していただいた。また生徒に身につけさせたい事等をご指摘していただき今後の学校運営の参考となりました。